

Meeting Report

19Th East Asia Joint Symposium on
Biochemical Research August 23-24,

倉島 洋介 炎症免疫学分野 ポスドク

8月22日～25日（2012年）に韓国ソウル大学分子生物学遺伝学研究所で開催された、第19回東アジアシンポジウムに出席しました。日本、韓国、中国、台湾といった東アジア諸国から、総勢50人弱の研究者が参加しました。日本からは東大医科研と京大ウィルス研が参加し、東大医科研から9名がそれぞれの研究成果を発表しました。私たちはHoam Faculty Houseというソウル大学の宿泊施設（ハウスといっても完全にホテルでした）に滞在しましたが、宿泊地から会場まで20分間弱をバスで移動し、1日10時間近く会場に缶詰め状態でした。

シンポジウムでは、シグナル伝達、転写調節、ガン、免疫、ウィルス、細胞骨格、発生といったセッションに分かれており、非常に多彩な研究範囲の発表がありました。各々の分野を牽引する先生方の話を拝聴できる大変貴重なチャンスでした。私は免疫学を専門としますので、免疫を中心とした学会やシンポジウムに出席する事がほとんどですが、今回のように様々な研究分野の最新の研究成果を聞くことは、もちろん勉強にもなりますし、それだけではなく、広い視点から再度自分の研究について考えてみるよい機会だと感じました。他分野で用いられている研究アプローチなどを、自分の研究に用いたらどうなるかなどとも想像しながら拝聴していました。

今回、私の研究グループの最近の報告である、肥満細胞が炎症性腸疾患を悪化させるという研究成果の一部の内容について発表しました。ポスター発表では、台湾のMing-Jiun Yu先生に厳しい質問を立て続けにぶつけられ、劣勢になっているところを、京大の竹内理先生に助けられるという場面がありました。という具合に、非常にエキサイティングな討論が各ポスターで繰り広げられていたのではないかと思います。

私事ながら、韓流ファンの妹の影響でわずかに知っている韓国語や、歴史ドラマから得た付け焼刃の知識を活用して、韓国の若手研究者達とコミュニケーションを図りました。その甲斐あって、新たな研究者の輪を広げることができました。研究は、一人では到底できないものですので、このような出会いが、いつか共

To Kurashima-san

論文掲載おめでとうございます！

Nature Communications 3, Article
number: 1034 (2012)

同研究に発展することになれば素晴らしいと思います。

最終日に、“Outstanding Young Scientist 1st Place TOMY Award”を思いがけず受賞致しました。多くの優れた研究発表の中で今回私が受賞致したことは、これからの私の研究を審査員の先生方が激励してくださったものと考え、より一層精進したいと決意を新たにしております。

最後になりますが、韓国滞在時は非常に体調がすぐれず、同行の先生方と仲間にご心配とご迷惑をおかけしたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。また、このような国際的なミーティングを立案し今日に至るまで継続的に開催して頂いております先生方、事務の方々にも深く感謝申し上げ、体験記とさせていただきます。

